

事業報告

〔自 令和 4 年 4 月 1 日〕
〔至 令和 5 年 3 月 3 1 日〕

1. 事業の概況

(1) 事業の経過及び成果

前期に引き続き、富山市の公共施設である八尾地域都市公園、神通川水辺プラザ自然ふれあい学習館、久婦須川ダム周辺広場、八尾パインパーク、八尾サンパーク、八尾ゆめの森交流施設の指定管理者として、施設の管理運営業務を行いました。

また、自主事業として、富山八尾中核工業団地内の道路法面の管理業務を受託するなど、自主財源の確保にも努めました。

当期の純損益は、営業収益 245,852,929 円から営業費用 257,353,452 円を差し引いた営業損失が 11,500,523 円、ここに営業外収益及び費用、法人税等を含めた当期純損失は 7,629,707 円となりました。

(2) 財産の状況

当期末の総資産は 142,464,573 円、純資産は 64,199,537 円となりました。

(3) 今後の取り組み

北陸管内の経済動向は、北陸経済調査によれば、個人消費は緩やかに持ち直しており、観光・飲食サービスにおける宿泊客数は前年を上回るものの、コロナ前までは回復しておらず、一方、消費者物価は大きく上昇していると報告されています。

また、先行きについては、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がありますとされています。

温泉宿泊施設「ゆうゆう館」では、宿泊客数は前年を上回るとともに、コロナ前の令和元年度と比較し 9 割程度まで回復しましたが、宴会客数は令和元年度の 4 割以下に減少しており、コロナ禍以降、依然として厳しい経営が続いております。

こうした中、良質なサービスの提供による再訪率の向上、広告等による積極的な営業、事務処理の効率化などの経営努力を行い、企業収益を改善するとともに、お客様に極め細かいサービスを提供できるよう最大限の努力を払ってまいります。

これからも、地域に根付き、親しまれ、信頼される企業を目指し、より良い施設運営に取り組み、地域の発展に寄与してまいります。